

介護福祉士チームリーダー研修
ガイドライン

平成 31 年 3 月

公益社団法人日本介護福祉士会

はじめに

福祉人材確保専門委員会が平成 29 年 10 月に取りまとめた「介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて」では、利用者の多様なニーズに対応できるよう、介護職のチームによるケアを推進していくにあたってリーダーの役割を担う者が必要であり、一定のキャリアを積んだ介護福祉士が適当と示されました。また介護福祉士がリーダーとして担うべき役割として、①高度な技術を有する介護の実践者としての役割、②介護技術の指導者としての役割、③介護職チーム内のサービスをマネジメントする役割の 3 つが示され、現場での実践過程における研修プログラムを検討することが方向性として示されました。

介護福祉士が、チームリーダーとして成長していく過程を支援するため、日本介護福祉士会では生涯研修体系を整備しています。主な研修としては、小規模の介護職チームのリーダーや、初任者等の指導系の育成を目的とした「ファーストステップ研修」と、より高い介護福祉の実践力をもって介護サービスマネジメントを行い、多職種との連携強化や、地域包括ケア等に対応できる介護福祉士の養成を目的とした「認定介護福祉士養成研修」の 2 つがあります。

一方、新任リーダー(ファーストステップ研修修了相当)が実践を重ねる中では、様々な工夫を生み出すこともあれば、一人では解決の難しい多くの課題に遭遇することもあります。成長の節目において、自らのこれまでの経験や現在置かれている状況を振り返ることは、自分自身のやり方の強みや弱みに気づき、チームリーダーとしての視点の獲得や継続的な学びを促すことが期待されます。

上述の課題認識を踏まえ、日本介護福祉士会ではこの度、リーダーとして担うべき 3 つの役割に係るチームリーダー向け研修を開発し、ガイドラインを策定しました。ガイドライン策定にあたっては、「中核的な役割を担う介護福祉士の資質向上に関するモデル事業」(平成 29 年度、厚生労働省 社会・援護局)、「介護人材の機能分化促進に向けたチームリーダーとなる介護福祉士の育成に係る研修ガイドライン策定事業」(平成 30 年度、厚生労働省 老健局)において検討及び検証を行いました。

全国の介護老人福祉施設(特養)及び介護老人保健施設(老健)(左記に関連する居宅・入居等のサービスを含む)に所属する介護福祉士リーダー(候補)740 人を対象とした「チームリーダーとなる介護福祉士の育成に係る実態調査」(平成 30 年度実施)の結果からも、リハビリテーション職などとの連携、スタッフとの面談・会議の遂行に関する不安感が大きく、今回開発したカリキュラム内容に対するニーズが高いことが示唆されました。

本ガイドラインを活用して「介護福祉士チームリーダー研修」が各地域で展開され、法人やサービス種別を超えて地域全体で介護福祉士のチームリーダーの養成が図られることを願っています。

平成 31 年 3 月
公益社団法人日本介護福祉士会

介護福祉士チームリーダー研修ガイドライン

<目次>

はじめに.....	1
I. 「介護福祉士チームリーダー研修」ガイドラインの構成.....	3
II. 「介護福祉士チームリーダー研修」の実施要綱.....	3
1. 研修の目的.....	3
2. 対象者.....	3
3. 実施方針.....	3
4. 実施方法.....	4
5. 集合研修の手法の特徴.....	4
6. 評価方法.....	4
III. 「介護福祉士チームリーダー研修」の修得目標.....	5
1. 「プログラム①実践・指導力の向上」の修得目標.....	5
2. 「プログラム②チームマネジメント力の向上」の修得目標.....	5
IV. 「プログラム①実践・指導力の向上」のカリキュラム及び教材.....	6
1. カリキュラム.....	6
(1) 全体カリキュラム.....	6
(2) 個別カリキュラム.....	7
2. 研修テキスト及びファシリテーターガイダンスの概要.....	16
3. 通信学習教材の概要.....	17
4. 演習用の映像教材の概要.....	18
V. 「プログラム②チームマネジメント力の向上」のカリキュラム及び教材.....	19
1. カリキュラム.....	19
(1) 全体カリキュラム.....	19
(2) 個別カリキュラム.....	19
2. 研修テキスト及び講師ガイダンスの概要.....	23
VI. 研修運営用のツール.....	24
1. 研修受講の手引き.....	24
2. 研修運営の手引き.....	25
3. 評価ツール.....	26

I. 「介護福祉士チームリーダー研修」ガイドラインの構成

本ガイドラインは、以下の内容で構成されている。

- ・ 実施要綱
- ・ 修得目標
- ・ 研修カリキュラム及び教材
- ・ 研修運営用のツール

※研修カリキュラム及び教材は、「プログラム①実践・指導力の向上」(平成30年度に開発)と、「プログラム②チームマネジメント力の向上」(平成29年度に開発)に分かれている。

II. 「介護福祉士チームリーダー研修」の実施要綱

1. 研修の目的

介護福祉士チームリーダー研修の目的は、リーダー業務に従事し始めた介護福祉士が下記のスキル等を獲得することである。

- ・ 「高度な技術を有する介護の実践者としての役割」、「介護技術の指導者としての役割」、「介護職チーム内のサービスをマネジメントする役割」に関する知識・技術
- ・ それらの知識・技術を業務実践に活かし、振り返りを行う方法
- ・ リーダー自身の成長課題とチームの課題を認識する方法
- ・ 課題解決に取り組む意欲
- ・ リーダーとしての悩みを相談しあえる人脈

2. 対象者

以下の条件をすべて満たす人とする。

- ①介護福祉士ファーストステップ研修を修了した人(又は同等の研修履歴がある人)
- ②介護職の小チーム(ユニット等、5～10名の介護職によるサービス提供チーム)のリーダー(ユニットリーダー、サービス提供責任者等)や、初任者等の指導係に就いている人(リーダーとしての実務経験を概ね1～3年程度有することが望ましい)

3. 実施方針

- ・ 実践力・指導力・チームマネジメント力の向上を図る
- ・ 実践力・指導力・チームマネジメント力の向上に向けた自らの成長課題とチームの課題を認識させ、解決に取り組む意欲を高める。
- ・ 業務における実践計画と、その振り返りを軸として、研修で学んだ内容の定着を図る。

- ・ 講師や研修参加者とのコミュニケーションを通じて、経験の振り返りを促進する。
- ・ 法人内の上司やリーダーとの関わりを引き出す。
- ・ リーダーとしての悩みを相談しあえるネットワークづくりを促す。

4. 実施方法

- ・ 受講者の業務負担を考慮し、集合研修の時間数を最小限に留める。(実践力・指導力は3日間、マネジメント力は2日間と個別面談(1時間))
- ・ 「疾患・障害等がある人への基本的動作・姿勢に関するケアの実践と指導方法」については、認定介護福祉士養成研修(I類)の「リハビリテーションに関する領域」に含まれる「生活支援のための運動学」及び「生活支援のためのリハビリテーションの知識」の2科目の読み替えを可とする。知識の習得に関しては通信学習(イーラーニング)を取り入れる。
- ・ 通信学習の到達度試験(正答率60%以上で合格)について、不合格の場合は再試験とする(複数回の受験可)。
- ・ 専門職と法人側が協働でチームリーダー養成を行うという観点から、複数の関係団体が受講者募集を協働で行い、受講者はサービス種別を超えて一緒に受講する。
- ・ ファシリテーターは、各地域の認定介護福祉士や各種研修の指導者、リハビリテーション専門職が担当する。研修などでのファシリテーター経験を一定程度持っていることが望ましい。

5. 集合研修の手法の特徴

- ・ 事前課題を活用して、受講者に学習課題の設定を促すとともに、研修運営側は研修の内容や実施方法を調整する。
- ・ アクションラーニングの手法を基盤とし、通信学習で学んだ知識の確認(講義)と、事例を用いたグループワークや自身の実践の振り返り(演習)、職場実践を組み合わせる。
- ・ 各グループの人数は4~6名程度とし、受講者数に応じて調整する。

6. 評価方法

- ・ 事前課題を通じて受講者自身が研修を通じて得たいこと(学習課題)を設定した上で、その達成状況を各回の終了後の受講者アンケートや集合研修を通じて評価する。
- ・ 受講者アンケート及びインタビュー、講師・ファシリテーターアンケートを実施し、研修内容やテキストの見直し等に活用する。

III. 「介護福祉士チームリーダー研修」の修得目標

1. 「プログラム①実践・指導力の向上」の修得目標

	チームリーダーが担うべき役割	本研修プログラムの修得目標
高度な知識・技術を有する 介護の実践者	認知症の症状に応じた対応	認知症の方への基本的な対応を指導する方法を習得する
	医療やリハビリの必要性が高い方への対応	医療やリハビリの必要性が高い利用者の運動生理を理解する
	終末期の方に対する看取りを含めた対応	(今回は対象外とする)
	障害の特性に応じた対応	障害特性（麻痺等）を踏まえた対応を根拠をもって実践し、それを説明できるようになる
	複合的な支援ニーズを抱える家族等への対応	(今回は対象外とする)
介護技術の指導者	介護職に対する能力開発（介護技術の指導や助言）	基本的動作・姿勢を介助する初任の介護職に対して、根拠をもって指摘する方法を習得する
	その能力を引き出す支援（適切な業務・役割の配分やスーパーバイズ）	初任の介護職への業務・役割の配分の工夫事例を知った上で、自らのチームでの実践計画を作り、研修期間中に実践する

2. 「プログラム②チームマネジメント力の向上」の修得目標

	チームリーダーが担うべき役割	本研修プログラムの修得目標
サービスを提供する 介護職のグループにおける マネジメントする役割	介護過程の展開における介護実践の管理	<ul style="list-style-type: none"> これまでの実践や研修での学びに基づいて、リーダーとしての現時点の成長課題とチームの課題に気づく。 課題を踏まえて、今後取り組みたいことを具体化する。 リーダーとしての悩みを相談しあえるネットワークを作る。
	グループ内の介護職のフォロー	
	様々な職種や機関からの利用者に関する情報収集と共有	
	介護職のグループからの情報提供	

IV. 「プログラム①実践・指導力の向上」のカリキュラム及び教材

1. カリキュラム

(1) 全体カリキュラム

実施方法	内容	時間数
①通信学習	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援のための運動学 生活支援のためのリハビリテーションの知識 ※イーラーニング教材及び指定教本「学生のためのリハビリテーション医学概論」(医歯薬出版)を活用	13.5 時間
②事前課題	<ul style="list-style-type: none"> スタッフの中から「面談と OJT 実践書作成・運用」の指導対象としたい人を選び、「事前課題シート」に記入する 	-
③集合研修 1 日目	<ul style="list-style-type: none"> 指導法に関する講義・演習 「職場実践計画①(面談と OJT 実践書作成・運用)」の作成 生活支援のためのリハビリテーションの知識に関する講義・演習 	6 時間
④集合研修 2 日目	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援のためのリハビリテーションの知識に関する筆記試験 基本的動作・姿勢の実践及び指導に関する講義・演習・総合討議 「職場実践計画②(基本的動作・姿勢の実践と指導)」の作成 	6 時間
⑤職場実践	<ul style="list-style-type: none"> 職場実践計画①、②に基づく取り組みの実施 「振り返りシート」の作成 	(1～2ヶ月間)
⑥集合研修 3 日目	<ul style="list-style-type: none"> 「振り返りシート」に基づく職場実践の共有 研修のまとめ 	6 時間

(2) 個別カリキュラム

① 通信学習

時間	セクション	内容	教材
科目「生活支援のための運動学」(450分)			
250分	自己学習(項目1~3)	・項目1(身体表面のランドマークの名称)、2(骨、関節、筋、中枢神経、末梢神経などの解剖・生理)、3(内部器官の運動時の生理)の自己学習を行う。	指定教本(第4、5、10、11章)
50分	イーラーニング聴講(項目1~3)	・項目1~3に関するコンテンツ①(10分)、②(23分)、③(17分)を聴講する。	e-learningコンテンツ①、②、③
-	到達度試験(項目1~3)	・筆記試験(34問)	到達度試験(項目1~3)
100分	自己学習(項目4、5)	・項目4(身体運動の基本的知識(関節可動域、筋力、運動の方向、動作))、5(運動の基本的な力学的考え方(モーメントなど))の自己学習を行う。	スライド資料(ダウンロードして入手)
20分	イーラーニング聴講(項目4、5)	・項目4、5に関するコンテンツ④(8分)、⑤(12分)を聴講する。	e-learningコンテンツ④、⑤
-	到達度試験(項目4、5)	・筆記試験(15問)	到達度試験(項目4、5)
25分	自己学習(項目6)	・項目6(摂食嚥下における解剖・運動生理)の自己学習を行う。	指定教本 p157~160(第7章 1.脳血管障害 4)機能障害 1.嚥下障害)
5分	イーラーニング聴講(項目6)	・項目6に関するコンテンツ⑥(5分)を聴講する。	e-learningコンテンツ⑥
-	到達度試験(項目6)	・筆記試験(5問)	到達度試験(項目6)

科目「生活支援のためのリハビリテーションの知識」(360 分)			
150 分	自己学習(項目 1)	・項目 1(リハビリテーションの理念)の自己学習を行う。	指定教本(第 1、2、3 章)
30 分	イーラーニング聴講(項目 1)	・項目 1 に関するコンテンツ⑦(30 分)を聴講する。	e-learning コンテンツ⑦
-	到達度試験(項目 1)	・筆記試験(15 問)	到達度試験(項目 1)
155 分	自己学習(項目 3)	・項目 3(各日常生活動作における各関節・筋の運動、および 上肢・体幹・下肢の相互関係)の自己学習を行う。	スライド資料(ダウンロードして入 手)
25 分	イーラーニング聴講(項目 3)	・項目 3 に関するコンテンツ⑧(25 分)を聴講する。	e-learning コンテンツ⑧
-	到達度試験(項目 3)	・筆記試験(13 問)	到達度試験(項目 3)

② 事前課題

- 職場実践で受講者が指導を行う職員(候補)を1名選んだ上で、事前課題シートに記入する。
1. 指導対象候補の職員はどのような人ですか。
 - 職場の後輩職員のなかから、指導対象候補を1名選び、その人について記入してください。
 - 職員の氏名は記入しないでください。
 - 職場実践では、その職員と面談を行い、今後の目標を設定して、具体的な学習計画を作成します。これからの成長を特に期待したい職員を候補に選ぶとよいでしょう。
 2. 指導対象候補の職員の認知症ケアの知識、経験、強みを教えてください。
 - 指導対象候補の職員の認知症ケアに関する知識(研修の受講歴、取得した資格など)、経験(経験年数、経験実績など)、強み(得意なこと、上手なことなど)について、あなたがわかる範囲で記入してください。
 3. 指導対象候補の職員とともにケアをより良くしたい利用者はどのような人ですか。
 - 自施設の利用者のなかから、指導対象候補の職員とともにケアをより良くしたい人を1名選び、その人の状態像や生活上の目標(あるいはケアの課題)を記入してください。
 - 利用者の氏名は記入しないでください。

③ 集合研修 1 日目

時間(配分)	セッション	内容	使用教材
10:00(5分)	趣旨と進め方の説明	○研修のねらい、位置づけの理解 ○タイムテーブルと学習内容の説明	・集合研修テキスト
10:05 (115分)	講義・演習	○人材育成手法に関する講義・演習(適宜ペアワークを実施) ・人材育成の手法の種類・特性、OJTの基本的な方法 ・ティーチング、コーチング(自己紹介や伝達、助言などのペアワークを実施) <詳細タイムテーブル> ・進め方の説明:8分 ・人材育成の手法と種類・特性:8分 ・OJTの基本的な方法:9分 ・ティーチング:60分 - ペアワーク5分(説明3分、自己紹介1分×2名) - 伝達トレーニング30分(説明10分、演習5分×2名、説明10分) - ジョブ・インストラクション 説明15分 - 助言トレーニング10分(説明6分、演習2分×2名) ・コーチング:25分 - 自己紹介4分(2分×2名) - 言葉当てゲーム(演習1分×2名) - 説明19分	・集合研修テキスト
12:00(60分)	休憩		
13:00(60分)	講義・演習	○OJT実践書の作成・運用に関する講義・演習 ・目標管理の考え方と個別面談の意義:25分 ・OJT実践書(指導対象者の学習計画及び指導者の指導計画)の意義、作成方法 ・事前課題を踏まえた職場実践計画①(面談とOJT実践書作成・運用)の作成(個人ワーク) <詳細タイムテーブル> ・目標管理の考え方と個別面談の意義:説明25分 ・職場実践で個別面談を行ってみましょう:35分 - ファシリテーション自己紹介5分	・集合研修テキスト ・事前課題シート ・職場実践計画①(面談とOJT実践書作成・運用)

		<ul style="list-style-type: none"> - 職場実践計画①の作成 25 分 - 今後の進め方の説明 5 分 	
14:00(10 分)	休憩		
14:10 (150 分) ※適宜小休憩を挟む	講義・演習	<p>○生活支援のためのリハビリテーションの知識に関する講義・演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・項目 2(心身の評価とアプローチ)、4(運動学的視点を生活支援に活かす考え方)、5(生活支援の中で活かすリハビリテーションの視点)に関する知識・技術について学習する。 ・具体的には、脳卒中片麻痺の利用者の事例動画(利用者の状態像、動作、生活環境など)や利用者情報シートを見ながらグループワークを行うことで、リハビリテーションの視点を心身の評価や生活支援にどのように活かすかを実践的に学ぶ。 <p><詳細タイムテーブル></p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題 2 の説明(10 分) ・課題 1 を踏まえて、スモールグループディスカッション(SGD)で指導方法の検討を行う。(110 分) ・発表(30 分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・集合研修テキスト ・指定教本 ・患者情報シート ・ポストイット イーゼルパッドまたは模造紙
16:40(20 分)	本日のまとめ	<p>○本日のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者アンケートの記入 	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者アンケート
17:00	終了		

④ 集合研修 2 日目

時間(配分)	セッション	内容	使用教材
10:00(5分)	本日の進め方の説明	○タイムテーブルと学習内容の説明	・集合研修テキスト
10:05(25分)	筆記試験・解説	○「生活支援のためのリハビリテーションの知識」の項目 2、4～7 の筆記試験	・到達度試験(24問)
10:30(160分+昼休憩50分)	講義・演習・総合討議	<p>○基本的動作・姿勢の実践に関する講義・演習・総合討議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中片麻痺の利用者の事例動画を見ながら、「活動性を上げていくにはどうしたら良いか」についてグループで討論を行う。 ・検討の視点は、①必要な評価や障害特性(討論後に講師から提示)、②日常生活動作の困難さ、③ボディメカニクスを生かした介助方法の工夫、④介助方法の選択、補装具の使用、福祉用具の使用 <p><詳細タイムテーブル></p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像1,2と、新たに映像3(生活環境)を視聴した上で、課題1(生活場面ごとの改善点の検討)の進め方について説明する。(20分) ・1日目に話し合ったケア方法を踏まえ、ワークシートも参考にしながら、SGDで課題1に取り組む。(80分) ・昼休憩(50分) ・課題1について全体発表を行う。(60分) <ul style="list-style-type: none"> - 各グループ10分(発表6分+質疑4分)×3グループ - 全体コメント(15分) - ワークシートを用いた個人ワーク(15分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・集合研修テキスト ・指定教本 ・事例映像1～4 ・職場実践計画②(基本的動作・姿勢の実践と指導) ・ポストイット イーゼルパッドまたは模造紙
14:00(150分)	講義・演習・総合討議	<p>○基本的動作・姿勢の指導に関する講義・演習・総合討議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的動作・姿勢を例にして、ティーチングの技法(標準的な手順の説明、実践に対する根拠に基づく指摘、改善に向けた提案など)についてグループで討論を行う。 ・討論結果について、実技を交えながら発表する(運動学的視点についての実技試験に相当する)。 ・職場実践計画②(基本的動作・姿勢の実践と指導)を作成する。(個人ワーク) <p><詳細タイムテーブル></p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題2(新人職員にケア方法を指導する場合、どのような点に配慮するか)の進め方に 	

		<p>ついて説明する。(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休憩(10分) ・課題1で話し合ったケア方法を踏まえ、SGDで課題2に取り組む。ベッド、車いすなどを使用し、実際の動作で確認する。(85分) ・課題2について全体発表を行う。(45分) <ul style="list-style-type: none"> - 各グループ10分(発表6分+質疑4分)×3グループ - 全体コメント(15分) 	
16:30(30分)	本日のまとめ	<p>○本日のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者アンケートの記入 	・受講者アンケート
17:00	終了		

⑤ 職場実践

1) OJT 実践書作成・運用

- 「職場実践計画①(面談と OJT 実践書作成・運用)」に基づき、指導対象者との面談を行うとともに、指導対象者とともに「OJT 実践書(案)」を作成する。
- 面談や OJT 実践書作成の過程で実施したことや成果・課題を「振り返りシート①(面談と OJT 実践書作成)」に記入し、「OJT 実践書(案)」と合わせて研修(3 日目)に持参する。
- OJT 実践書に基づいて実際に運用をするのは任意とする。

2) 基本的動作・姿勢の実践と指導

- 「職場実践計画②(基本的動作・姿勢の実践と指導)」に基づき、自らの業務での実践と、OJT を通じた指導を行う。
- 実践・指導の過程で実施したことや成果・課題を「振り返りシート②(基本的動作・姿勢の実践と指導)」に記入し、研修(3 日目)に持参する。

職場実践計画①(面談とOJT実践書作成)	
研修ID:	
①面談の前の準備	
②面談の進め方	
③OJT実践書作成の進め方	

職場実践計画②a(基本的動作・姿勢の実践)	
研修ID:	
①実践を行う時期	②想定する生活場面
③想定する利用者の状態像	
④実践にあたって工夫したいこと、留意したいこと	

職場実践計画②b(基本的動作・姿勢の指導)	
研修ID:	
①想定する指導対象者	②想定する生活場面
③想定する利用者の状態像と、生活上の目標(あるいはケアの課題)	
④指導方法 ※個別ケアでの声かけや抱擁など	
⑤指導にあたって工夫したいこと、留意したいこと	

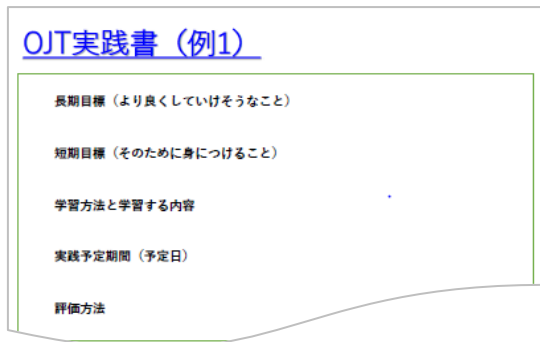
⑥ 集合研修 3 日目

時間(配分)	セッション	内容	使用教材
10:00(5分)	本日の進め方の説明	○タイムテーブルと学習内容の説明	・集合研修テキスト
10:05(145分)	総合討議	○面談とOJT実践書作成・運用の振り返り ・「振り返りシート①(面談とOJT実践書作成・運用)」に基づいて各自が発表を行い、OJT実践書の内容や運用方法の改善点を話し合う。 ・全体共有を踏まえ、「行動プラン①(面談とOJT実践書作成・運用)」を作成する。(個人ワーク)	・振り返りシート①(面談とOJT実践書作成・運用) ・行動プラン①(OJT実践書の運用)
12:30(60分)	休憩		
13:30(170分)	総合討議	○基本的動作・姿勢の実践と指導の振り返り ・「振り返りシート②(基本的動作・姿勢の実践と指導)」に基づいてグループで成果や課題を共有し、今後の実践及び指導の改善点を話し合う。 ・グループでの討議や全体共有を踏まえ、「行動プラン②(基本的動作・姿勢の実践と指導)」を作成する。(個人ワーク)	・振り返りシート②(基本的動作・姿勢の実践と指導) ・行動プラン②(基本的動作・姿勢の実践と指導)
16:20(10分)	休憩		
16:30(30分)	研修のまとめ	○「リーダーとして今後取り組みたいこと」の一言発表 ・受講者アンケートの記入(個人ワークの振り返りを兼ねる) ・各受講者が「リーダーとして今後取り組みたいこと」を一人1分で発表する。 ○今後の実践・指導にかかる心構え ・講師からのメッセージ ・継続学習に向けた推奨教材・研修等の紹介	・集合研修テキスト ・受講者アンケート
17:00	終了		

2. 研修テキスト及びファシリテーターガイダンスの概要

- 研修テキストには、集合研修の講義内容の要点や演習の進行方法、各種ワークシートの雛形が掲載されている。
- ファシリテーターに対しては、グループワークへの関わり方の留意点を伝えるファシリテーターガイダンスを用意している。

ケアの指導方法のテキスト(抜粋)



疾患・障害等がある人への基本的動作・姿勢に関するケアの実践と指導方法テキスト(抜粋)

スモール・グループ・ディスカッション(SGD)とは、

与えられたテーマについて、グループで考えて、何かを作ったり、結論を出したりすること。

- テーマや時間、ルールなどが伝えられる
- 自己紹介をする。学校名や氏名などを伝え、簡単なあいさつを行う
- 役割(司会、書記、タイムキーパーなど)やタイムスケジュールを決める
- それぞれの意見を出し合ったり、共同作業を行ったり、ディスカッション・ワークを行う
- グループとしての意見をまとめる(成果物があるなら、成果物の制作)
- 発表する

基本的動作・姿勢の指導に関する総合討議 ワークシート

生活場面	手順	障害特性を踏まえた留意点	改善策
ベリから車椅子へ			
車椅子から床へ			
浴槽の入り口内へ			

ワークシート・イメージを示します。余力が足りない場合には、シートを用いて安全な動作を「相」にわけるとわかりやすいです。

ファシリテーターガイダンス(抜粋)

基本的動作・姿勢に関するケアの実践と指導方法

【グループワークの準備】

グループワークの目的は、一人ひとりの意見を尊重し、お互いに学び合い、知識や技術を共有し、課題を解決することです。グループワークは、学習の場であり、コミュニケーションの場でもあります。グループワークを行う際には、以下の点に注意してください。

- グループワークの準備
 - グループワークの目的を明確にする。
 - グループワークのルールを定める。
 - グループワークの役割を分担する。
 - グループワークの進行を促す。
- グループワークの実施
 - グループワークの進行を促す。
 - グループワークの成果をまとめる。
 - グループワークの振り返りを行う。

3. 通信学習教材の概要

- 通信学習の教材としては、『学生のためのリハビリテーション医学概論』(医歯薬出版)を指定教本とした上で、下記のコンテンツを用意している。

The screenshot shows the website of the Japanese Association of Certified Care Workers (日本介護福祉士会). The page title is 'チームリーダー実践・指導力向上研修' (Team Leader Practice and Guidance Improvement Training). The main content area lists several items:

- はじめに
- 生活支援のための運動学
- 生活支援のリハビリテーションのための知識
- 研修前事前課題シート
- 事前アンケート ※事前提出
- 受講者アンケート (2日目)
- 3日目研修に向けた事前課題

On the right side, there are navigation links: 'インフォメーション' (Information), 'メンタリングボックス' (Mentoring Box), and 'よくある質問' (Frequently Asked Questions).



The slide is titled '誤嚥性肺炎' (Aspiration Pneumonia). It includes a list of causes and symptoms, and a chest X-ray image.

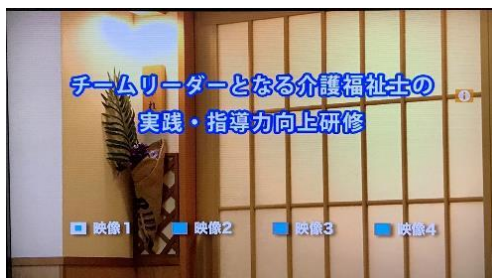
- 食物 胃液 唾液よって起こる
 - 不顕性嚥嚥によるものが多い
 - 胃液→化学的肺炎
 - 口腔内細菌→細菌性肺炎
- 起因菌
 - 肺炎球菌, インフルエンザ菌, 黄色ブドウ球菌
 - 嫌気性菌などの口腔内常在菌
 - 口腔ケア重要
- 胸部X線像
 - 気管支肺炎 散在性の粒状影・斑状影
 - 右下肺野に好発

The chest X-ray image shows a person's lungs with some opacities, indicating pneumonia.

4. 演習用の映像教材の概要

- ・ 情報が少ない中で患者の現状や情報の概要を整理できる力の育成を図るため、演習用の映像教材を用意している。

開始画面



映像1 「ベッドから車いすへ移乗介助」の映像 (演習の最初に視聴、3分)

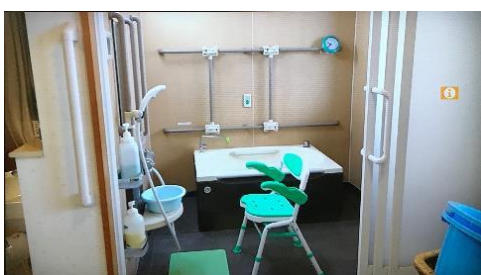


資料1 患者情報シート (グループワーク開始後に配布)

映像2 詳細な生活場面の映像 (グループワークの途中で視聴、3分)



映像3 施設の状況の映像 (グループワークの途中で視聴、3分)



映像4 施設で実際に行っている移乗介助動作 (グループワークの最後に視聴、3分)

V. 「プログラム②チームマネジメント力の向上」のカリキュラム及び教材

1. カリキュラム

(1) 全体カリキュラム

実施方法	内容	時間数
①事前課題	・受講者がこれまで経験したこと、リーダーとして抱えている疑問や悩みについて、事前課題シートに記入する	-
②研修 1 日目 (集合)	・チームマネジメントに関する講義・演習 ・「行動プラン」の作成	6 時間 30 分
③職場実践 (前半)	・「行動プラン」に基づく取り組みの実践	(1 ヶ月間)
④研修 2 日目 (個別)	・職場実践の中間振り返り	受講者 1 人につき 1 時間
⑤職場実践 (後半)	・「行動プラン」に基づく取り組みの実践	(1 ヶ月間)
⑥研修 3 日目 (集合)	・「振り返りシート」に基づく職場実践の共有 ・研修のまとめ	5 時間 30 分

- ・ 使用教材は、研修テキスト(行動プランなどのワークシートを含む)である。

(2) 個別カリキュラム

① 事前課題

- ・ 受講者がこれまで経験したこと、リーダーとして抱えている疑問や悩みについて、事前課題シートに記入する。

自己紹介 & 目標設定シート

研修ID:
会場名:

第1回
事前課題

- これまで経験したこと、リーダーとして抱えている疑問や悩みを記入しましょう。
- 第1回研修の一週間前までにご提出下さい。

私はいま、リーダーとしてこんな仕事をしています

リーダーとして、こんな疑問や悩みがあります

リーダーとして上手く出来たこと、出来なかったこと
※どちらか1つでも、両方でもOK

② 研修 1 日目(集合)

時間(配分)	セッション	内容
9:30(10分)	趣旨説明、講師自己紹介	<ul style="list-style-type: none"> 研修のねらい、位置づけの理解
9:40(15分)	自己紹介	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介を兼ねて受講者同士の交流を図る
9:55(45分)	講義① 「チームマネジメントとは？」	<ul style="list-style-type: none"> 職場が直面している課題とチームマネジメントの重要性 チームの生成過程と各段階でリーダーが持つべき視点 <p>※ファーストステップ研修の内容を再確認する。</p>
10:40(10分)	個人ワーク① 「私のチームづくりの振り返り」	<ul style="list-style-type: none"> 事前課題の「自己紹介&目標設定シート」に、講義①を踏まえて気づいたことを加筆する。
10:50(10分)	休憩	
11:00(90分)	グループワーク① 「私たちのチームづくりの振り返り」	<ul style="list-style-type: none"> 事前課題の加筆版を元に、各受講者の経験を共有する。(1人につき説明10分、意見交換5分) <p>※1グループあたり受講者6名。指導担当者が各グループのファシリテーションを行う。(以下同様)</p>
12:30(60分)	昼食	
13:30(30分)	講義② 「チームづくりのポイント」	<ul style="list-style-type: none"> チームづくりの「あるある」話(失敗例) 改善策の考え方と実践例 <p>※理論と事例を組み合わせで説明する。 ※午前中の議論を踏まえて強調するポイントを選ぶ。</p>
14:00(90分)	グループワーク② 「改善点に関する相談会」	<ul style="list-style-type: none"> 各受講者の振り返りをもとに、何を解決すればよいかを検討する。(1人15分)
15:30(10分)	休憩	
15:40(20分)	個人ワーク② 「行動プランの作成」	<ul style="list-style-type: none"> 実践の振り返りと、理論の学びを踏まえ、これからの2ヵ月間で実践したい行動プランを作成する。
16:00(60分)	行動プランの発表、まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 各受講者の行動プランを発表する。(1人3分) 全体での質疑(14分)
17:00	終了	<ul style="list-style-type: none"> 今後のスケジュールの説明

③ 職場実践(前半)

- 行動プランに基づき、チームの課題解決に向けた取り組みを行う。
- 取り組みの成果・課題を「振り返りシート」に記入し、研修 2 日目に持参する。

行動プラン	研修ID: 会場名:
私のチームの目標 (こうなりたい)	私のチームの状況
私のチームの課題	
私がメンバーとともに、これから2ヶ月間で取り組みたいこと	

1ヶ月間の実践振り返りシート	研修ID: 会場名:
第2回 事前課題	
これまでの1ヶ月間で取り組んだこと	
取り組んで良かったこと	
取り組む過程で悩んだこと、難しかったこと	

④ 研修 2 日目(個別)

時間(配分)	セッション	内容
(5 分)	趣旨説明	• 今回の個別面談のねらい、位置づけの理解
(10 分)	行動プランの振り返り	• 事前課題の「振り返りシート」に基づき、受講者が行動プランの進捗状況(達成できたこと、うまく進んでいないこと)を説明する。
(35 分)	意見交換	• 実践上の問題点の整理、改善策の検討について、コーチング形式で意見交換を行う。
(10 分)	まとめ	• 今回の意見交換を踏まえ、第 3 回に向けて実施することを文章でまとめる。

⑤ 職場実践(後半)

- 研修 2 日目(個別)の意見交換を踏まえ、引き続き行動プランに基づいて、チームの課題解決に向けた取り組みを行う。
- 取り組みの成果・課題を「振り返りシート」に記入し、研修 3 日目に持参する。

⑥ 研修 3 日目(集合)

時間(配分)	セッション	内容
9:30(10分)	進め方の説明	<ul style="list-style-type: none"> 研修のねらい、位置づけの理解
9:40(10分)	個人ワーク① 「実践の振り返り」	<ul style="list-style-type: none"> 2ヵ月間で実践できたことや成果、実践を通じた気づきを「振り返りシート」にまとめる。 <p>※事前課題とし、全員が記入できている場合は割愛。</p>
9:50(90分)	全体共有 「実践の共有」	<ul style="list-style-type: none"> 実践振り返りシートを元に、各受講者の実践を共有する。(1人につき説明3分、質疑2分) 全体質疑、講師コメント(30分)
11:20(10分)	休憩	
11:30(20分)	個人ワーク② 「行動プラン(案)の作成」	<ul style="list-style-type: none"> 研修での学びを踏まえ、これからの3ヵ月で実践したい行動プラン(案)を作成する。
11:50(60分)	昼食	
12:50(60分)	グループワーク 「行動プラン(案)に関する相談会」	<ul style="list-style-type: none"> 各受講者の行動プラン(案)を共有し、さらに効果的、具体的にするためにアイデアを出し合う。(1人につき説明3分、意見交換7分)
13:50(10分)	個人ワーク③ 「行動プランの完成・発表準備」	<ul style="list-style-type: none"> 相談会での意見交換を踏まえ、行動プランを修正し、完成させる。
14:00(10分)	休憩	<p>※上司が参加する場合、このタイミングで会場に入る。</p>
14:10(90分)	行動プラン発表会	<ul style="list-style-type: none"> 各受講者の行動プランを発表する。(1人につき発表5分、質疑2分、計84分) 全体での質疑(6分)
15:40(5分)	研修の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 個人での振り返り、アンケート記入
15:45(15分)	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 講師による総括 <p>※時間があれば数名の受講者に感想を話してもらう</p>
16:00	終了	

2. 研修テキスト及び講師ガイダンスの概要

- ・ 研修テキストには、集合研修の講義内容の要点や演習の進行方法、各種ワークシートの雛形が掲載されている。
- ・ 講師に対しては、研修の進行上の留意点を伝える講師ガイダンスを用意している。

チームの「あるある」

チームメンバーのむやみや

「相談できる人がいない・・・」

「この事務作業って本当に必要？」

「なぜ私ばかり仕事が多いの！」

「クレームが続くなあ」

「上は現場のことを分かっていない！」

・・・

現場で起きうるリスク

- ヒヤリハットが増える
- スタッフが次々に辞める
- 利用者が集まらない
- ...

<このスライドのねらい>

- ・ チームが力を発揮できていない状態において、チームメンバーから出る不平・不満やそれを放置することに伴うリスクを認識してもらうこと
- ・ 次直以降で取り上げる「チームマネジメント」は、このような不平・不満やリスクが出ない／大きくならないようにするために重要なのだ、ということの理解への布石とすること

<進行上の留意点>

- ・ 受講者が身近に感じるような事例を紹介すると良い。具体的には以下のような事例が考えられる。（※説明に用いるのは必ずしもこの3例でなくて良い）
 - （例1）重度の認知症の利用者への対応が出来るスタッフが一人しかおらず、その一人に業務負担が集中することに対し、不平・不満が溜まる
 - （例2）勤務時間に制約がある子育て・介護と両立しているスタッフ、業務内容に制約がある非正規スタッフなどがチーム内に居ることにより、チームメンバー内での業務負担の偏りが大きいことに対し、不平・不満が溜まる
 - （例3）新卒で法人に就職したスタッフと、他法人から転籍してきたスタッフとの間で「自立支援」に対する考え方が異なり、ケアの手順や内容が異なることに対し、不平・不満が溜まる

お互いの取り組みを共有しよう

グループワーク
90分

自己紹介＆目標設定シートに基づいて、各グループで取り組みを共有しましょう。

共有の進め方

→

※繰り返し（グループの人数）

シートの記入内容の発表
【10分】

意見交換
【5分】

深掘り質問のヒント

- ✓ どういう経緯でその取り組みを始めたのか？
- ✓ 取り組みによって得られた成果は？
- ✓ 取り組みにおいて困ったことや課題は？ また乗り越えた場合はどうだったのか？
- ✓ 次のステップとして、どういったことを想定しているか？

30

<このスライドのねらい>

- ・ 自己紹介＆目標設定シートに書いた内容を、グループ内で共有する手順と、意見交換にあたっての質問の切り口を示すこと

<進行上の留意点>

- ・ 一人あたりの発表・意見交換、全体共有の時間配分は目安であり、各グループの人数によって適宜調整する。
- ・ 発表者以外の受講者からの質問を促しつつ、質問が出ない場合は、ファシリテーター役が質問をしたり、発言を促したりする。

VI. 研修運営用のツール

1. 研修受講の手引き

2. 研修運営の手引き

3. 評価ツール

※本書「介護福祉士チームリーダー研修ガイドライン」は、日本介護福祉士会が実施した「中核的な役割を担う介護福祉士の資質向上に関するモデル事業」(平成 29 年度、厚生労働省 社会・援護局)、「介護人材の機能分化促進に向けたチームリーダーとなる介護福祉士の育成に係る研修ガイドライン策定事業」(平成 30 年度、厚生労働省 老健局)で策定したガイドラインを取りまとめたものです。

介護福祉士チームリーダー研修ガイドライン

平成 31 年 3 月

公益社団法人日本介護福祉士会

TEL:03-5615-9295 FAX:03-5615-9296

MAIL:webmaster@jaccw.or.jp